

令和8年度芸備線再構築に関する実証事業 (実証事業AB)の実施

令和8年3月25日

国土交通省 中国運輸局

令和8年度実証事業(実証事業AB)の実施

○ 令和8年度実証事業(実証事業A・B)

(名称)

令和8年度芸備線再構築に関する実証事業(実証事業A・B)

(目的:実証事業A)

- ・調査事業Aで提案された、実証事業Aで取り組むことが望ましいとされた施策等を実施し、調査事業Aで試算した地域経済効果の発現を最大化するとともに、その結果を踏まえ調査事業Aの地域経済効果の試算が妥当であったかどうかを検証する
- ・構成員意見を踏まえ、令和8年4月～6月において実証事業Aの必要な施策を継続実施する

(目的:実証事業B)

- ・これまでの議論を踏まえれば、最適な交通モードを議論するに当たっては、鉄道と鉄道以外の他の交通モードの地域経済効果の比較検討を中心に行っていくこととなっている
※なお、最適な交通モードを判断するに当たっては、データとファクトに基づき、その他の要素も踏まえ総合的な判断を行う
- ・このため、調査事業A→実証事業Aの実施プロセスと同様に、令和7年度の新調査事業において試算した他モードの地域経済効果の検証等を行うため、住民や来訪者などの利用者ニーズや交通事業者の現況を踏まえた上で、令和8年度において実証事業Bを実施する

(事業委託:実証事業A・B)

- ・実証事業A・Bを来年度当初から開始する方針
- ・この点、株式会社JTB広島支店は、実証事業Aを受託し、鉄道の可能性を追求する実証事業Aの各施策に取り組むなど、これまで協議会の議論に深く関与
- ・実証事業Aにおける同社の専門的知見の蓄積や沿線地域で築いた関係性を生かし、これまでの継続的な議論に即応して年度当初からシームレスに各施策に着手する観点から、引き続き、同者と委託契約を行って事業実施する

具体的内容

1. 芸備線沿線の日常利用向けのバスの実証運行（実証B）

- ・ 平日の芸備線の運行に合わせたバスの実証運行として、芸備線沿線の主要道路を幹線的に運行するバスの実証運行を実施
- ・ 運行区間や運行ダイヤ等については、利用の利便性向上を図った上で、利用者ニーズや交通事業者の状況を踏まえて設定

2. 芸備線沿線の観光利用向けのバスの実証運行（実証B）

- ・ 来年度の実証事業Aにおける臨時列車運行（下記4.）終了後、土休日の臨時列車運行と同等の運行区間・運行時間帯において、バスの実証運行を実施

3. 日常利用者を対象とした乗車モニター調査（実証B）

- ・ 定期券利用者などの芸備線の日常的な利用者を乗車モニターとして設定し、モニターに1.のうちあらかじめ日時を指定したバスに複数回の乗車を依頼した上で、乗車時間・乗り心地・利便性などについてモニターからのアンケート調査等を実施

4. 住民・来訪者利用に合わせた鉄道サービスの拡充・二次交通との連携強化（実証A）

- ・ 臨時列車運行（令和7年7月19日～11月24日の土休日）と同様の列車運行やこれに合わせた二次交通の運行を令和8年4月～6月に実施

具体的内容

5. 企画乗車券の設定等（実証A・B）

- ・観光施設の割引利用券とセットになった企画乗車券の設定、鉄道とバスの相互利用可能な企画乗車券の設定のほか、バスの乗継割引などの運賃割引を実施

6. 観光ツアーの造成（実証A・B）

- ・土休日における芸備線の臨時列車運行やバスの実証運行に合わせて、観光ツアーを造成

7. プロモーションの実施（実証A・B）

- ・令和7年度に開設したランディングページやSNSの取組を継続し、実証事業A（鉄道）や実証事業B（バス）の運行情報、沿線地域に関する取組などのプロモーションを実施

8. 既存事業の強化・支援（実証A・B）

- ・実証事業A（鉄道）や実証事業B（バス）のそれぞれの実施期間において沿線地域で実施される取組について、取組の支援やプロモーションを実施

9. 委託事業に関するデータの収集・分析（実証A・B）

- ・実証事業A・Bにおいて得られたデータに基づいて、他の交通モードの地域経済効果の検証を実施
- ・検証結果については、鉄道と他モードの地域経済効果の比較検討等を行うため、「芸備線再構築方針作成等に関する調査事業」において活用